

今週のテーマ

1. 一週間のまとめ

(1) [与党陣営の動き](#)

～12月15日までに選挙関連法改定～

..... 1p

(2) [野党陣営の動き](#)

～マラカイボ市公金 選挙活動流用？～

..... 3p

(3) [外国の動き](#)

～BRICS 首脳会議でブラジルと亀裂～

..... 4p

(4) [今週、来週の主なイベント](#)

..... 5p

(5) [債券の元利不払い状況](#)

..... 6p

2. [Tellechea 氏拘束の要因となった](#)

[米国企業と過去の経緯](#)

..... 7p

3. [Tellechea 氏拘束](#)

[カベジョ内務司法相 vs ロドリゲス兄妹](#)

..... 9p

債券指標の動き

4. [ベネズエラ債券・経済指標の増減](#)

..... 11p

カントリーリスク分析



(写真) @VTV

“カベジョ内務司法相 テジェチェア元石油相の拘束理由を説明”

一週間のまとめ(2024年10月20日～10月26日)

(1) [与党陣営の動き](#) ～12月15日までに選挙関連法改定～

今週ベネズエラで起きた最も大きなニュースは2024年8月まで石油相・PDVSA 総裁を兼任していたラファエル・テジェチェア氏の拘束であることは間違いない。

本件については、本稿「[2. Tellechea 氏拘束の要因となった米国企業と過去の経緯](#)」「[3. Tellechea 氏拘束 カベジョ内務司法相 vs ロドリゲス兄妹](#)」にて後述したい。

他に特筆すべき動きとしては、選挙法の改定議論だろう。

与党国会は、主要野党・急進野党を選挙から排除するため選挙関連法（選挙手続き法、政党法、最高裁組織法など）の改定議論を進めている。

POINT

これら選挙関連法の改定について、ホルヘ・ロドリゲス議長は「12月15日までに法律の改定が完了していることだろう」との見解を示した。

2025年には、地方選挙（州知事・市長選（州議会議員・市議会議員含む））と国会議員選が開催される。

ロドリゲス国会議長

野党が有効な手段を取ることが出来なければ、主要野党・急進野党が排除された状態で両選挙が行われることになるだろう。また、何度も触れているが、その次の選挙は2029年の地方選挙である。

12月15日までに選

挙関連法の見直しを完

了させる見通し。

つまり、それまでは政府・国会・州知事・市長・州議会議員・市議会議員など選挙で選ばれる全ての公権力が、このままでは実質的に「ベネズエラ社会主義統一党（PSUV）」の一党体制で運営されることになる。

野党が2025年の地

方選・国会議員選をボ

イコットした場合、ベ

ネズエラの全ての公権

力の独裁体制が定着。

ベネズエラには他にも「司法（最高裁）」「選挙（CNE）」「民衆（倫理委員会）」などの公権力が存在するが、これらの役員任命は国会が重要な役割を担っている。従って、最高裁、CNE、倫理委員会も実質的にこれまで以上にPSUVの支配下に入ると言っても過言ではない。

2029年までPSUVの一党支配が続けば、その頃にはベネズエラの政治は全く別のものになっているだろう。

次の選挙（29年の地

方選）にはベネズエラ

の政治は別のものにな

っているだろう。

それだけ2025年は大事な年であり、地方選・国会議員選をボイコットすることがどれだけ危険かは容易に想像できるはずだが、野党側がそのことを十分に認識しているかは疑問である。

カプリレス元ミランダ州知事は、地方選・国会議員選に参加する必要性を主張しており、一部では、伝統的な主要野党幹部である「行動民主党（AD）」のラモス・アジュップ氏やカプリレス氏らがマリア・コリナ・マチャド氏（MCM）を裏切って、地方選挙・国会議員選への参加について与党と協議していると報じられている。

チャベス元大統領が大統領に就任してから25年間、野党は常にPSUVの手のひらの上で踊らされてきたが、今回もPSUVの思惑通りに動きそうな気配を感じている。

POINT

マラカイボ市役所のペドロ・グアニパ氏「同市の野党系市長がゴンサレス候補の選挙キャンペーンに市の資金を流用していた」と証言。

野党は「マドゥロ政権に証言を強要された」と主張。

(2) 野党陣営の動き ～マラカイボ市公金 選挙活動に流用?～

9月26日 ベネズエラで公安の役割を担っている「SEBIN」は、「第一正義党 (PJ)」幹部であるファン・パブロ・グアニパ氏の兄のペドロ・グアニパ氏 (マラカイボ市役所の執行部長) を拘束した ([「ベネズエラ・トゥデイ No.1121」](#))。

10月22日 ディオスダート・カベジョ内務司法相は、ペドロ・グアニパ氏の証言映像を公開。

ペドロ・グアニパ氏は、マラカイボ市の野党系市長であるラファエル・ラミレス氏 (同じく逮捕されている) が、MCM 氏・エドムンド・ゴンサレス候補の選挙キャンペーンに市の予算5万ドルを使用したと証言している。

野党側は、「証言は強要されたもの」と主張。一般メディアは、ペドロ氏の証言については報じておらず、与党系メディアだけが本件について報じている。

なお、個人的にはペドロ氏の証言 (マラカイボ市の公金をゴンサレス候補の選挙キャンペーンに流用したこと) は事実だと思うが、マドゥロ政権も政府資金を選挙活動に使用しており、法律が平等に適用されない点について問題だと感じている。



(写真) Globovision

“ペドロ氏 ラファエル・ラミレス市長による市の資金の選挙流用を証言”

POINT

ベネズエラ ブラジルの反対により BRICS のパートナー候補国入りに失敗。

ブラジルメディア 「ルラ大統領は、マドゥロ大統領およびベネズエラに関する話を拒否している」と報道。

（3）外国の動き ～BRICS 首脳会議でブラジルと亀裂～

10月22日～24日にかけて BRICS 首脳会議がロシアのカザンにて開催された。

ベネズエラからはマドゥロ大統領およびデルシー・ロドリゲス副大統領が出席。BRICS のパートナー候補国入りの可能性を模索した。しかし、ブラジルの反対を受けて、ベネズエラがパートナー候補国に入ることはなかった（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1133」](#)）。

これを受けて、マドゥロ政権外務省はブラジル政府を批判する声明を発表。「ブラジルは、ボルソナロ政権から続くベネズエラへの排他的な妨害を継続している」と訴えた。

また、ブラジルメディア「O Globo」は、匿名関係者から得た情報として「ルラは、マドゥロやベネズエラの話聞きたくないと考えている」と報じた。

なお、ブラジルとコロンビアはベネズエラの大統領選の仲裁国として水面下で調整を試みていると報じられているが、本件について、カプリレス元知事は、YouTube のインタビュー番組に出演し、「ルラもペトロもベネズエラの仲裁にタオルを投げた」とコメント。

ブラジルのルラ政権はマドゥロ政権にとって数少ない非敵対国だが、関係は上手くいっていないことが伺える。



（写真） Vladimir a la Carta

(4) 今週、来週の主なイベント

米国デラウェア州裁判所は、CITGO の持株会社である「PDV Holdings」の競売について、「Elliott Investment Management」の関係会社「Amber Energy」を落札者（暫定）に決定した。これにより CITGO の米国企業への売却が現実的な段階に突入した（[「ベネズエラ・トゥデイ No.1122」](#)）。

10月23日 与党国会は、CITGO を米国企業に引き渡すことになった責任者を追及し、罪を受けさせるべきとして PDV Holdings の競売に関与した351人の捜査を行うよう検察庁に要請。タレク・ウィリアム・サブア検事総長は同捜査のため2名の検事を任命した。

これまでも、マドゥロ政権は、野党系政治家について「国に害を成す売国奴」として裁く姿勢を示しているが、更に野党への圧力が強化されそうだ。

表： 10月20日～10月26日に起きた主なイベント

日付		内容
10月 20日	日	Tellechea前PDVSA総裁 「国家への裏切り」容疑で拘束
21日	月	
22日	火	BRICS首脳会議@ロシア開幕
23日	水	与党国会 CITGO競売の責任者の捜査を要請
24日	木	BRICS首脳会議閉幕、ベネズエラはパートナー候補国になれず
25日	金	
26日	土	

表： 10月27日～11月3日に予定されている主なイベント

日付		内容
10月 27日	日	
28日	月	
29日	火	
30日	水	
31日	木	
11月 1日	金	
2日	土	
3日	日	

(5) 債券の元利不払い状況

表：ベネズエラ債券の債務不履行額（10月25日時点）

（単位：100万ドル）

種類	債券	満期	利率	各年利払日	元本	利息	合計
国債	国債19	19年10月13日	7.75%	4/13 10/13	2,495	1,450.2	3,945.2
	国債24	24年10月13日	8.25%	4/13 10/13	2,495	1,543.8	4,038.8
	国債25	25年4月21日	7.65%	4/21 10/21	1,600	979.2	2,579.2
	国債26	26年10月21日	11.75%	4/21 10/21	3,000	2,291.3	5,291.3
	国債23	23年7月5日	9.00%	1/5 7/5	2,000	1,260.0	3,260.0
	国債28	28年5月7日	9.25%	5/7 11/7	2,000	1,295.0	3,295.0
	国債18	18年12月1日	7.00%	6/1 12/1	1,000	490.0	1,490.0
	国債20	20年12月9日	6.00%	6/9 12/9	1,500	630.0	2,130.0
	国債34	34年1月13日	9.38%	1/31 7/13	1,500	984.4	2,484.4
	国債31	31年8月5日	11.95%	2/5 8/5	4,200	3,513.3	7,713.3
	国債18	18年8月15日	13.63%	2/15 8/15	300	286.1	586.1
	国債18F	18年8月15日	13.63%	2/15 8/15	752	717.2	1,469.2
	国債22	22年8月23日	12.75%	2/23 8/23	3,000	2,677.5	5,677.5
	国債27	27年9月15日	9.25%	3/15 9/15	4,000	2,590.0	6,590.0
	国債38	38年3月31日	7.00%	3/31 9/31	1,250	612.5	1,862.5
グレースピリオド満了未払					31,092	21,320.5	52,412.5
種類	債券	満期	利率	各年利払日	元本	利息	合計
PDVSA債	PDVSA26	26年11月15日	6.00%	5/15 11/15	4,500	1,890	6,390.0
	PDVSA24	24年5月16日	6.00%	5/16 11/16	5,000	2,100	7,100.0
	PDVSA21	21年11月17日	9.00%	5/17 11/17	2,394	1,508	3,902.2
	PDVSA35	35年5月17日	9.75%	5/17 11/17	3,000	2,048	5,047.5
	PDVSA220	22年2月17日	12.75%	2/17 8/17	3,000	2,869	5,868.8
	PDVSA27	27年4月12日	5.38%	4/12 10/12	3,000	1,209	4,209.4
	PDVSA37	37年4月12日	9.75%	4/12 10/12	1,500	1,097	2,596.9
	PDVSA22	22年10月28日	6.00%	4/28 10/28	3,000	1,350	4,350.0
	PDVSA20	20年10月27日	8.50%	4/27 10/27	1,684	1,073	2,757.2
グレースピリオド満了未払					27,078	15,144.1	42,221.9
電力債18	18年4月10日	8.50%	4/10 10/10	650.0	386.8	1,036.8	
グレースピリオド満了未払					650.0	386.8	1,036.8
合計					58,820	36,851	95,671

（出所）Av Security よりベネインベストメント作成

POINT

ラファエル・テジェチ
ェア元 PDVSA 総裁兼

石油相拘束される。

カベジヨ内務司法相

「テジェチェア氏は
“PDVSA の頭脳”を米
国政府と関係が強い米
国企業に引き渡した」

と主張。

問題の米国企業は
SAIC（あるいはその関
係企業）とされる。

2. Tellechea 氏拘束の要因となった米国企業と過去の経緯

2024年8月まで石油相兼 PDVSA 総裁を務めていたラファエル・テジェチェア氏（前国内生産工業相）が逮捕された（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1132](#)」）。

「Venalum」「Metor」など日本企業が関連する企業の経営に関与したこともある人物で、日本としては期待できる人物だっただけにテジェチェア氏の失脚は残念なニュースと言える。

カベジヨ内務司法相は、テジェチェア氏拘束の理由について「米国企業に“PDVSA の頭脳”と呼ばれる重要システムを引き渡したこと」と説明している。

本稿では“PDVSA の頭脳”と呼ばれるシステムについて確認できた情報を紹介したい。

“PDVSA の頭脳”と呼ばれる重要なシステムは、「Scada Galba」と呼ばれるシステムのように、正式名称は「ALBA ガーディアン-データ取得・監視コントロール（Supervisory Control And Data Acquisition-Guardián del Alba）」。

ベネズエラ全土の原油・ガス生産を監視・コントロールしている。

Scada Galba により、リアルタイムで複数の鉱井の圧力や温度などを確認することが可能で、何らかの修正を検討するために有用だという。

2002年に故チャベス元大統領がクーデターを受けた際、後述する当時の管理システムのコントロールが奪われ、オペレーションに著しい障害を及ぼしたことがある。

当時のクーデターと同じようなことが起きないように2005年に Scada Galba が誕生し、2008年から運用が始まったという。

故チャベス元大統領がストライキに合った2002年当時、PDVSA は、米国バージニア州本社のシステム会社「Science Applications International Corporation (SAIC)」との合弁会社「Intesa」の「Intesa プラットフォーム」を使用していたという。なお、Intesa の持ち株比率は PDVSA が40%、SAIC が60%だった。

POINT

**2002年当時、
PDVSAとSAICによる
合併会社 Intesa が
PDVSA のオペレーシ
ョンを管理していた。**

**2002年、PDVSAで
ストライキが起きた
際、Intesa 関係者がシ
ステムを止め、PDVSA
が機能停止状態に陥っ
たことがあった。**

**テジェチェア氏は「国
家への裏切り」で捜査
を受けることになる。**

Intesa は原油ターミナルでの原油の積み込み、荷下ろし、貯蔵および産油施設のオペレーションなどを管理しており、2002年に起きた PDVSA のストライキの際の PDVSA 機能停止は、Intesa の関係者がシステムをブロックし、重要パスワードを持ち去ったためとされている。

SAIC は米国の行政サービスを多く引き受けており、米国国務省・中央情報局の OB が役員に就いた過去があるなど米国政府との関係は強い。また、SAIC の主要顧客は米国国防省とされている。

SAIC は現存する会社である。

カベジヨ内務司法相はテジェチェア氏拘束の理由について、「米国企業に“PDVSA の頭脳”と呼ばれる重要なシステムのコントロールを引き渡した」と指摘しており、具体的な企業名については言及しなかったが、調べた限り、問題になっている米国企業は、SAIC かその関係会社ということになりそうだ。

つまり、カベジヨ内務司法相は、テジェチェア氏がマドゥロ政権を裏切り、石油システム妨害に協力しようとしていた可能性を指摘していることになる。

ただ、テジェチェア氏が PDVSA 総裁になり、「Scada Galba」の運営委託を問題になっている米国企業に切り替えたことで、産油量の増産ペースが上がったのだとすると、今回の件を機に米国企業が「Scada Galba」の運営から離れることで、今後の増産ペースは減速するのかもしれない。

POINT

3. Tellechea 氏拘束 カベジヨ内務司法相 vs ロドリゲス兄妹

前述の通り、「米国企業に“PDVSA の頭脳”と呼ばれる重要システムを引き渡したこと」がテジェチェア氏拘束の表向きの理由だが、これは口実で、テジェチェア氏拘束の本当の理由はカベジヨ内務司法相とロドリゲス兄妹（デルシー・ロドリゲス副大統領とホルヘ・ロドリゲス国会議長）の権力争いにあったと言われている。

ベネズエラ人ジャーナリストのパトリシア・ポレオ氏は、カベジヨ内務司法相が自身の権限を行使し、デルシー・ロドリゲス副大統領（兼石油相）の権力を奪うためのオペレーションを行っていると言っている。

既に公式情報ではあるが Majed Khalil Majzoub と Khaled Khalil Majzoub（以下、カリル兄弟）というレバノン人が拘束された。

このカリル兄弟は、デルシー・ロドリゲス副大統領の恋人 Yusef Abou Nassif Smaili（同じくレバノン人）の従兄弟だという。エネルギー・食料・テクノロジー関連でビジネスを行っており、ベネズエラ・パナマ・バルバドスなどに会社を持っている。

具体的に言うと、ベネズエラでは「Distribuidora Agromar」「Pacific Rim Energy」「Grupo Orbis」「Hardwell Technologies」のオーナーであり、バルバドスでは「Pacific Rim Energy」、パナマでは「Argenta Zona Libre」「Sigma International Services」「Kimbra International Corporation」などの会社が登記されているようだ（Poderopedia 参照）。

カリル兄弟は、故チャベス政権時代から食料輸入による汚職取引を開始し、巨額の資産を手にしたと言われている。

なお、Yusef Abou Nassif Smaili 氏と彼の親類を中心とするビジネスネットワークについては過去に「[ウィークリーレポート No.213](#)」で紹介しているので参照されたい。

テジェチェア氏拘束の表向きの理由は「国家への裏切り」容疑だが、実際はロドリゲス兄妹とカベジヨ内務司法相の権力争いか。

カベジヨ内務司法相、デルシー・ロドリゲス副大統領が関与する汚職取引への捜査の手を伸ばす。

POINT

テジェチェア氏は、ロドリゲス副大統領の利益を守っていたとされ、逮捕に至ったとの噂あり。

現在 PDVSA 総裁を務めるエクトル・オブレゴン氏もロドリゲス副大統領に近い人物で、逮捕される可能性も。

現実化すればマドゥロ政権に内部混乱が起きるだろう。

話を戻して、カ ril 兄弟が拘束された理由は公にはなっていないが、2023年にポレオ氏が「カ ril 兄弟が原油を積んだタンカーを輸出し、その支払いをしないままタンカーの消息が途絶え、この取引にはデルシー・ロドリゲス副大統領が関与している」と指摘していた。

ポレオ氏によると、ロドリゲス副大統領の利益を守り、カ ril 兄弟の取引を保護していたのがラファエル・テジェチェア氏だったと指摘している。

ちなみに、新たに PDVSA 総裁に就任したエクトル・オブレゴン氏はロドリゲス副大統領に非常に近い人物で、オブレゴン氏も PDVSA 役員だったこともあり、汚職取引に関連した尋問を受けているとの情報がある。

なお、カベジヨ内務司法相と弟のホセ・デビッド・カベジヨ徴税庁 (SENIAT) 長官は、現在の軍部を支えている高官グループ (軍部士官学校 87 年卒組み) を掌握しており、マドゥロ大統領は政権維持のためにカベジヨ内務司法相の支援が必須だという。

「[ウィークリーレポート No.378](#)」でも紹介した通り、PDVSA 総裁・石油相に就任した人物の多くが逮捕されている。

現在ロドリゲス兄妹はベネズエラ国内で絶大な権力を握っているが、このままカベジヨ内務司法相との権力闘争が激化すれば、ロドリゲス副大統領 (兼石油相) およびオブレゴン PDVSA 総裁も同じ道をたどるのかもしれない。

ただし、仮にそのようなことが起きればマドゥロ政権内部は大きな混乱が生じることだろう。

4. ベネズエラ債券・経済指標の増減(10月25日時点)

銘柄	利率	満期	BID	ASK	平均	先週比
国債	2018-I	2018/8/15	15.85	17.35	16.60	△ 1.92
	2018-II	2018/8/15	15.9	17.05	16.48	△ 1.49
	2018	2018/12/1	10.5	12	11.25	△ 1.96
	2019	2019/10/13	11.2	12.45	11.83	△ 1.46
	2020	2020/12/9	10.65	12.05	11.35	△ 1.30
	2022	2022/8/23	14.6	16	15.30	△ 2.08
	2023	2023/7/5	12.35	13.65	13.00	△ 2.26
	2024	2024/10/13	12.5	13.7	13.10	△ 1.50
	2025	2025/4/21	12.35	13.6	12.98	△ 1.14
	2026	2026/10/21	14.1	15.45	14.78	△ 3.27
	2027	2027/9/15	13.5	15.1	14.30	△ 3.54
	2028	2028/5/7	12.7	14.1	13.40	△ 3.07
	2031	2031/8/5	13.85	15.35	14.60	△ 2.18
	2034	2034/1/13	14.95	16.4	15.68	△ 2.34
	2038	2038/3/31	11.9	13.2	12.55	△ 1.18
電力債	2018	2018/4/10	5.5	7.75	6.63	△ 5.02

	利率 %	満期	BID	ASK	平均	先週比
2020	8.5	2020/10/27	91	92.35	91.68	△ 0.78
2021	9	2021/11/17	9.3	10.4	9.85	2.07
P 2022	12.75	2022/2/17	10.45	11.5	10.98	△ 1.57
D 2022(N)	6	2022/10/28	7.1	8.25	7.68	△ 1.29
V 2024	6	2024/5/16	8.4	9.7	9.05	△ 0.82
S 2026	6	2026/11/15	8.55	9.75	9.15	△ 0.27
A 2027	5.375	2027/4/12	8.5	9.8	9.15	△ 0.27
2035	9.75	2035/5/17	10.2	11.5	10.85	△ 1.81
2037	5.5	2037/4/12	8.65	9.75	9.20	△ 2.65

	百万ドル	先週比
外貨準備	10,632	0.33

為替レート	ボリ/ドル	先週比
両替テーブル	41.04	4.78
並行レート	49.12	4.05

(出所) Avsecurity、ベネズエラ中央銀行、Dolarparalelo_Oficial

解説

7月28日の大統領選以降、ベネズエラ債(国債・PDVSA債)は下落が続いている。

大統領選直前の24年7月26日時点で、ベネズエラ国債は額面1ドル当たり平均20.02セントで取引されていた。

また、PDVSA債は同23.11セントで取引されていた。

しかし、10月25日時点でベネズエラ国債は同13.81セント。PDVSA債は同18.62セントで取引されている。

為替レートは、公定レート(両替テーブル)、並行レートともに急激にボリバル安が進んでおり、共に先週比4%超上がっている。

このままだと2024年12月末には1ドル70~80ボリバルになることも考えられそうだ。

以上